

今月の重点活動

■水稲・水田農業担い手連絡協議会 研究交流会にてWeb研修を実施

8月4日、JAぎふ本店など5会場において、JAぎふ水田農業担い手連絡協議会の研究交流会が開催された。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、Web開催となり、計100名の関係者が各会場に参集した。

研究交流会では農業普及課、県農政部スマート農業推進室、JA全農岐阜、JAぎふの担当者が講師となり、米穀に関する生産技術や流通動向、スマート農業などについて研修が行われた。農業普及課からは、昨年大きな被害をもたらしたトビイロウンカの生態と対策について説明するとともに、今年度管内各地で実施している払い落とし調査結果について報告した。出席した会員はトビイロウンカの発生動向に高い関心を持っており、熱心に聞き入っていた。

今後、農業普及課では、トビイロウンカ・斑点米カメムシ類・いもち病などの防除指導を行い、令和3年産米の単収および品質の向上を支援していく。



【Web研修の様子】

(地域支援第三係・松本政行)

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■羽島市・土地利用型作物担い手 スマート農業技術の視察

8月4日、羽島市内の土地利用型作物の担い手を対象にした第1回スマート農業技術視察が開催された。

スマート農業に関心のある生産者5名が、管内で先進的な取り組みを行っている(農)巣南営農組合を視察した。今まで農業機械を扱ったことがない人でも、ロボットトラクターや防除ドローンなどは取り組みやすいとの説明を聞き、視察者の中にはスマート農業の導入に前向きな感想を持たれた方もみえた。

今後、農業普及課では、農業経営の改善や発展を目指す生産者に対して、スマート農業の導入に向けた適切な支援を行っていく。



【視察の様子】

(地域支援第二係・木村裕子)

■女性農業経営アドバイザー オンライン講演会に参加

8月20日、OKBふれあい会館において、GLAMAいきいきネットワーク岐阜ブロック第2回県研修会(講演会)および第2回全体会が新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインで開催された。

研修会では恵那川上屋代表取締役鎌田真悟氏の講演を聴講し、全体会では本年度の活動計画の打ち合わせを行った。新型コロナの影響で活動が縮小している中、久しぶりの活動となったため、多くの会員が出席し近況などの情報交換を積極的に行った。

農業普及課では、今後も自主的なアドバイザーの活動を支援していく。



【オンライン講演会に参加する会員】

(園芸産地支援第一係・横田京子)

安心して身近な「ぎふの食」づくり

■水稲 トビイロウンカ払い落とし調査の実施

8月10～20日、管内水田38ヶ所でトビイロウンカの払い落とし調査を行った。昨年はハツシモを中心にトビイロウンカが多発し、管内各所で「坪枯れ水田」が発生した。そのため、今年度は発生動向の早期把握と新たに導入した箱施薬剤の効果検証を行うため、定期的に払い落とし調査を実施している。

今回の調査結果から、新しい箱施薬剤の高い防除効果を確認することができたため、JAを通じて管内稲作農家にこの情報を提供した。

今後、農業普及課では、9月にも払い落とし調査を行うとともに坪枯れの有無を確認し、次年度の防除体系について検討していく。



【払い落とし調査の様子】

(地域支援第三係・松本政行)

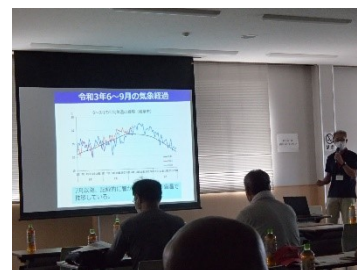
ぎふ農畜産物のブランド展開

■いちご 本巣いちご部会生産者大会の開催

8月10日、JAぎふ糸貫流通センターにおいて、本巣いちご部会生産者大会および栽培講習会が開催された。令和2年作もコロナ禍での生産・販売となったが、出荷量、販売額、単価ともにほぼ前年並であった。

栽培講習会では、農業普及課から今後の栽培管理に加えて、昨年多発したハスモンヨトウの対策および現地試験結果を説明した。近年、ハスモンヨトウに対する薬剤感受性の低下が懸念されていることから、同一系統薬剤の世代間連用を回避することの重要性を伝えた。

本年作もあと約1ヶ月で定植時期を迎える。農業普及課では、関係機関と連携して安定生産を図るための支援を行っていく。



【栽培講習会の様子】

(園芸産地支援第一係・菊井裕人)

■ナシ 「幸水」の出荷始まる

8月2～4日、本巣市梨振興会、巣南梨振興会および岐阜市なし部会で「幸水」の目揃え会が開催された。

各産地の目揃え会では、JAなどから出荷基準や出荷方法の説明があった後、農業普及課から病虫害対策や当面の栽培管理の説明を行った。出荷は4日頃より開始され、大玉で糖度の高い果実が出荷される。

今後、農業普及課では、病虫害防除などについて指導し、高品質安定生産を進めていく。



【目揃え会の様子】

(園芸産地支援第二係・鈴木哲也)